

第 22 回
全国中学生創造ものづくり教育フェア
in かながわ

募集要項

令和 4 年 1 1 月 5 日 (土)
湘南工科大学

主催 神奈川県公立中学校教育研究会 技術・家庭科研究部会

後援

調整中

協賛

【関東大会・全国大会の期日・会場について】

<関東大会>

令和 4 年 1 2 月 4 日 (土) 5 日 (日)
リモート開催

<全国大会>

令和 5 年 1 月 2 8 日 (土) 1 月 2 9 日 (日)
リモート開催

※全部門の全国大会が実施されます。

I 開催の趣旨

二十一世紀におけるIT（情報技術）革命、宇宙科学の進歩、地球環境の改善など新たな世紀の世界については、いろいろな未来像が語られている。この事の取り組みを一つとってみても、日本の国力を考えると、日本の科学技術の開発力は世界第一級の水準にあり、日本には世界に誇れる技術力（ものづくりの力）があることも確かである。

しかしながら、わが国の若者達は「科学技術離れ」「ものづくりの体験の不足」やそれらに対する「無関心の増加」などの現象が教育的な課題になっている。この課題を早急に解決していかなければ二十一世紀の世界の激しい国家間競争の時代に、日本が打ち勝つことはできないのではないだろうか。

この状況の中で、「ものづくり基盤技術振興基本法」が国是として法案化され、基本計画が制定された。この基本計画は、日本が持っている本来の技術力をより一層高め、高度な技術者の育成する「ものづくり教育」の充実・発展を進める具体的な日本の施策である。

このことにより、「ものづくりに関する学習」があらゆる教育の場で取り込まれることになったが「ものづくり教育」の学習体系として一貫して進めている教科教育は、中学校における技術・家庭科だけが現実である。

私ども技術・家庭科は、教科発足以来40年間、その時代の社会の変化に適応する人材育成のために「ものづくり ひとづくり くにづくり」を教育の理念として実践を進めてきた。具体的な学習では、本物を対象として「ものづくり」の実践的・体験的な学習を通し、自ら工夫する能力と創造性を発揮し、生活の自立を図る「ひとづくり」に取り組んでいる。まさに、この教科教育理念や具体的な実践は、世界に通用する日本人の基本的な資質（くにづくり）を育成する教育であり、ものづくり基本法の精神に則った「ものづくり学習」だと受け止めている。

そこで、神奈川県公立中学校教育研究会技術・家庭科研究部会では、全日本中学校技術・家庭科研究会主催の「全国中学生創造ものづくり教育フェア」の取り組みを、昨年度に引き続いて、神奈川県内における「ものづくり学習」を実践している生徒達の教育的成果の発表の場と位置づけ、その競技会の実施を通じて、本教科の「ものづくり ひとづくり くにづくり」の教育理念を県民や小・中学生に理解していただくとともに、これからの「ものづくり教育」の発展・充実のために神奈川県・神奈川県教育委員会・（社）全国中学校産業教育教材振興協会等ものづくり教育にかかわる機関の後援（予定）により次のような目的を持った”全国中学生創造ものづくり教育フェア in かながわ”を開催するものである。

- 1：県内の中学生が競技会や作品展を通して、「ものづくり学習」の成果を発表し表彰することにより、ものを創る喜びを味わう機会とするとともに、「ものづくり」への関心・意欲を高揚させる。
- 2：県民に広く「ものづくり教育」の重要性と、「ものづくり教育」によって培われた創造的な技能や生活への実践的態度を認識していただき、啓発をはかる。
- 3：「ものづくり教育」の充実と発展のために中学生やものづくり教育関係者等の研修を深める。
- 4：県内の中学生の「技術・家庭科」の学習状況を把握し、学習の成果を把握する。

II 会場について

湘南工科大学

〒：231-0023

住所：神奈川県藤沢市辻堂西海岸一丁目 1-25

交通：電車 JR 東海道本線 辻堂駅南口下車徒歩 15 分

バス 浜見山・浜見山降車場徒歩 3 分

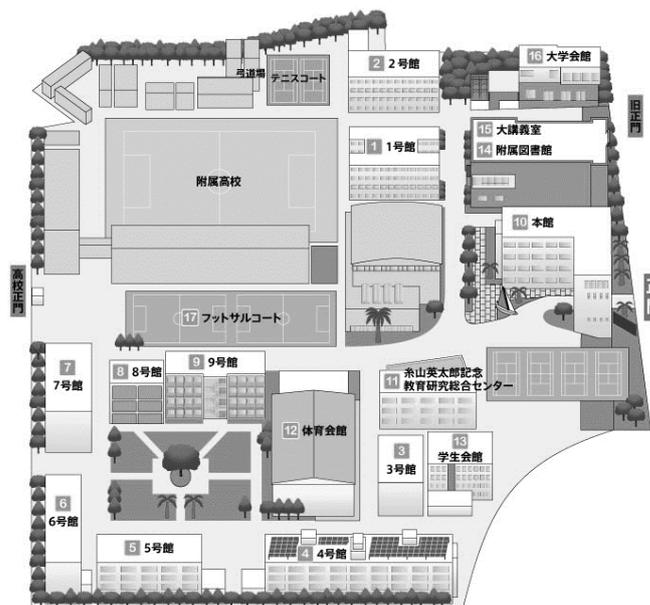
電話：0466-30-0200

会場周辺地図



※google マップより引用

校舎構内図



Ⅲ 実施要項

(1) 生徒作品コンクール部門 締め切り

申し込み9月9日(金)

<出品について>

写真およびレポートによる審査のみとし、作品展示は行いません。

<出品点数>

技術分野・家庭分野、Ⅰ部門・Ⅱ部門合わせて、各校6点までの出品とさせていただきます。

<出品作品の条件>

○大きさは縦+横+高さ=160cm以下

○重量 25kg以下

○Ⅰ部門は製作費が5000円以下のもの

注意 *よく読んでご確認ください。

- ・家庭分野の衣類に関しても1着の重さは、作品規定を超えてはならない。
- ・規格外のものは審査の対象外とする。
- ・知的財産権(著作権、商標権など)に配慮し、キャラクターが入った作品は出品しないこと。

<応募資格>

日本国内の中学校に(令和4年度現在)在学している生徒が製作した作品であること。

<応募作品の部門>

Ⅰ部門(授業内製作作品)

技術分野・家庭分野共に、総製作時間(設計・製作を含む)数の内、80%以上の時間が教科の授業中に創造製作した作品部門(総合的な学習の時間、放課後の活動、部活動、休み時間等は、教科の授業中の製作活動とみなさない)。必修授業で製作した作品のみをⅠ部門とする

〰

Ⅱ部門(自主製作作品)

技術分野・家庭科分野共に、技術・家庭科で学習した知識や技術を生かして製作した創造作品で、Ⅰ部門(授業内製作作品)に該当しない部門(総合的な学習の時間、長期休業や放課後の活動、休み時間等で製作したもの)。

<提出書類について>

応諾書と写真データ(作品全体1枚とアピールできるポイント2枚:計3枚)、審査資料、作品申込書の4点。

*入賞した作品は、全国フェアへの出品があります。(分野・部門を問わず6点)

担当者(問い合わせ・書類提出先)

〒253-0061 茅ヶ崎市南湖6-15-3

茅ヶ崎市立西浜中学校 教諭 佐久川 仁(県技家研 書記)

TEL 0467-85-3167 FAX 046-85-3168

メール koyazil983@yahoo.co.jp

(2) 木工チャレンジコンテスト

1 費用

○本コンテストに係る費用の一切（材料費・送料等を含む）は各校負担でお願いします。

2 競技内容

〔予備審査〕

〈課題〉

与えられた材料を活用して、生活や社会の問題を材料と加工の技術により解決できる作品を設計・製作すること。ただし、以下の(1)設計・製作条件を満たすものとする（**構想作品の例**：高齢者又は幼児のための作品、学校又は家庭で役立つ作品など）。

(1) 設計・製作条件

- ・個人で設計・製作すること。
- ・作品は、製作時間4時間以内で完成できること。
- ・使用できる材料は、木材又は集成材の板2枚（寸法 t15×W200×L900）及び合板1枚（t4×W450×L450）とする。なお、木材及び木質材料の樹種は自由とする。これら以外は、接合金具（釘、木ねじ、ボルトナット、ノックダウン金具、補強金具、蝶番）及び取手、フック、マグネットキャッチのみ使用できるものとする。
- ・作品の大きさは、3辺の合計長さが160cm以内とする。
- ・製作工程において、①さしがねによるけがき、②のこぎりによる切断、③平かんによる部品加工、④くぎ打ちによる組立、⑤直角定規等による検査、⑥紙やすりによる仕上げ作業を含むこと。

(2) 参加申込方法

- ①〈課題〉の条件を満たす作品の構想図（A4のケント紙を使用）をPDFファイルで送信
 - ②応諾書（全日中Webサイトよりダウンロード）を簡易書留で郵送（費用は各校負担）
 - ・令和4年9月9日（金曜日）までに次に示す申込先まで提出方よろしくをお願いします。
 - ・①の送信及び②の送付が完了しましたら、必ず電話連絡による確認をしてください。
 - ・審査の結果、県大会出場が決定した場合、大会事務局より令和4年9月26日（月曜日）までに、競技に係る連絡をいたします。
 - ・なお、県大会の出場定員は最大6名で、原則として出場できるのは各学校3名までとします。
- ・ただし、予備審査の応募人数には規定はありません。

申込先 神奈川県公立中学校教育研究会技術・家庭科研究部会
川崎市立南大師中学校 教諭 矢坂 健太郎 宛
☎210-0828 川崎市川崎区四谷上町24番地の1
電話／044-266-2124・2125 ファクシミリ／044-287-4071
Eメールアドレス／t2005745@kawasaki-edu.ed.jp

〔神奈川県大会〕

- ◆県大会においては、〔予備審査〕で提出した構想図に基づく作品を製作してください。また、自分が製作した作品についてのプレゼンテーションを行います。

〈競技課題〉

与えられた材料を活用して、生活や社会の問題を木材加工の技術により解決できる作品を設計・製作すること。ただし、以下の(1)競技規定を満たすものとする（**構想作品の例**：高齢者又は幼児のための作品、学校又は家庭で役立つ作品など）。

(1) 競技規定

- ・大会事務局より示された〈競技課題〉について、各自で2時間以内に完成すること。
- ・製作工程について、オンラインによる実施に伴い、①材料取り15～30分、②部品加工30～60分、③組立30～60分、④仕上15～30分を目安とし、時間内に完成するよう事前に加工することを認める。
- ・事前の加工は基本的に手加工とする。使用できる工作機械は、卓上ボール盤と糸のこ盤のみとする。
- ・事前の加工と当日の加工に要する延べ時間が、およそ4時間以内になるような作品を設計・製作し完成させること。
- ・材料はヒノキ板材2枚（寸法 t15×W200×L900）とシナ合板1枚（t4×W450×L450）とする。これら以外は、接合金具（釘、木ねじ、ボルトナット、ノックダウン金具、補強金具及び蝶番）、取手、フ

- ック及びマグネットキャッチのみ使用できるものとする。
- 作品の大きさは、3辺の合計が160cm以内とする。
- 製作工程において、①さしがねによるけがき、②のこぎりによる切断、③平かんによる部品加工、④くぎ打ちによる組立、⑤定規等による検査、⑥紙やすりによる仕上作業を含むこと。
- 使用できる工具類は、技術・家庭科教科書（学習指導要領準拠）の内容「A 材料と加工の技術」に関する部分に掲載されているものに限る（木工チャレンジWebサイト掲載「教科書掲載工具」参照）。
- その他（ドリル刃のサイズなど）は、木工チャレンジWebサイトに掲載されている「製作部門過去Q&Aまとめ」を確認すること。なお、迷われる場合は、必ず事前に大会事務局にお問い合わせください。

(2) 使用材料（材料は各校又は参加者が手配してください）

- ヒノキ板材（寸法：t15×W200×L900mm） 数量：2枚
↳ W100 mmの板を2枚貼り合わせたきわはぎ板
- シナ合板（寸法：t4×W450×L450mm） 数量：1枚

(3) 工具類（全て参加者又は出場校が準備する）

- 作業に適した服装及び靴。
- 工具の種類は、現在中学校で使用されている技術・家庭科教科書（令和2年度入学の3年生へ支給された教科書を含む）に掲載されているものに限る。
- 鉛筆（赤鉛筆を含む）、鉛筆削り、消しゴム及びタオル5枚程度。
- 工作機械（卓上ボール盤及び糸のこ盤）を使用する場合の刃物・ジグ類。
- 接合金具（釘、木ねじ、ボルトナット、ロックダウン金具、補強金具及び蝶番）、取手、フック、マグネットキャッチ及びその取り付けに必要な手工具（三つ目ぎり、ドライバー等）。

(4) プレゼンテーション

- 作品の使用法、工夫点、評価・活用結果等について、2分以内で発表する。
- プレゼンテーションでは、作品のほかに、説明用ポスターとして紙やパワーポイントスライド2枚以内を用いて発表することができる。
- ただし、必要な道具等は各自で準備する。また、スライドにアニメーション機能は使用しないこと。
- 県大会当日に製作した作品をプレゼンテーションに活用することは差し支えない。

(5) 事前の提出物

- 県大会出場者は、10月28日（金曜日）までに、①及び②を大会事務局へ提出すること。
- ①製作品（当日の製作に用いる構想図で製作されたもの）
- ②構想図（等角図又は第三角法による正投影図）、問題解決レポート、材料取り図及び工程表
- ①を郵送又は持参し、②は①に同封する又は1つのPDFファイルにまとめて上に示すEメールアドレスに送信方よろしく願います。なお、書式は、全日中Webサイトからダウンロードした規定用紙に記載してください。

(6) オンライン通信について

- Web会議システム（Zoom）による競技者同士のリアルタイム接続により、同時刻によるコンテストを実施する。
- 参加者は、技術室等からネットワークに接続できる環境を整えておくこと。
- 基本的には競技者を固定して撮影することを想定している。
- 審査員の要望により、アングルや拡大等の指定があった場合は、指導者がその操作を行うこと。

(7) 表彰

- 神奈川県知事賞（1位：全国大会推薦）
- 神奈川県教育長賞（2位）
- 神奈川県中学校文化連盟会長賞（3～5位）
- 社団法人全国中学校産業教育教材振興協会会長賞（6～8位）
- 神奈川県公立中学校教育研究会技術・家庭科研究部会長賞
- ※神奈川県より代表1名を推薦する。県フェア（略）の結果、優秀生徒1名を全国大会に推薦する。
- ※全国大会推薦者の在籍する中学校は、応募規定、個人準備、支給材料、会場準備及び工具などについて、全日中のWebサイトに掲載されている実施要項を熟読したうえで、各学校の責任において応募すること。
- 全日中Webサイト=<http://www.ajgika.ne.jp>

(8) 評価の観点——評価の観点は、次に示すA～Eの5項目とする。

A 創意工夫……作品に創意工夫があるか。

- ①作品に形態，構造，機能などの点で創意工夫があるか。
- ②与えられた材料を過不足なく有効かつ合理的に使用しているか。
- ③与えられた条件を満たした創意工夫があるか。

B 製作への態度……安全に留意して合理的に作業を進めているか。

- ①安全に留意して作業を進めているか。
- ②工具を合理的で丁寧に扱っているか。
- ③合理的な手順で作業を進めているか。

C 製作に係る技能……材料の固定，工具の持ち方，作業中の身体動作等，工具の合理的な使用に関する知識及び技能を習得しているか。

- ①のこぎりの使用に係る知識及び技能を習得しているか。
- ②かんなの使用に係る知識及び技能を習得しているか。
- ③げんごうの使用に係る知識及び技能を習得しているか。
- ④のみ使用に係る知識と技能を習得しているか。
- ⑤その他の工具の使用に係る知識及び技能を習得しているか。

D 作品の精度……作品の仕上がり精度が高く，適切な材料の使用法ができるか。

- ①部材の寸法が正しく，接合面に目違いがないか。
- ②作品の角度は正しいか。
- ③表面が美しく仕上がっているか。
(逆目ぼれ，端欠け，かんなまくら，耳立ち，くぎの突出，げんごうによる打撃痕等)
- ④各部材は合理的に使用されているか。(木目による繊維方向等)

E プレゼンテーションの内容……作品に対して的確なプレゼンテーションができているか。

- ①最低限，「作品を作ろうとしたきっかけ」「使用法とシステム」「工夫した点」「頑張った点」がプレゼンテーション中に組み込まれているか。
- ②教科書や筆記用具等を用いて，具体的なプレゼンテーションができたか。

※評価の観点及び項目は，審査上の都合により断りなく変更することがあります。

(3) 豊かな生活を創るアイデアバッグ

※作品の条件は、全国大会要項に準ずる。

<作品の条件>

- ① 競技の課題について
『バッグ（ショルダーバッグ、トートバッグ、リュックサックなど）』とする。
- ② 使用する布について
 - ・バッグ本体の全部または、一部に、家庭にある自分または、家族の衣服を用いる。その他、衣服以外の布などを加えてもよい。
- ③ デザイン及び機能について
 - ・衣服の一部をそのままの形で1つ以上活用する。
(例：ポケットの形状やボタンをそのまま利用する など)
 - ・『バッグ』の口を閉じられるようにして、中身が出ない工夫をする
- ④ 縫製について
 - ・入れるものに必要な強度が保たれるように、布目の方向や縫い目の大きさ及び縫い代の始末の仕方などを工夫する。
 - ・バッグのいずれかの部分にまつり縫いを取り入れる。
 - ・スナップは、必ず1つ以上付ける。
 - ・3時間程度で製作できる作品とする。
- ⑤ レポートについて
 - ・レポートには、「テーマ」、「構想」、「自分や家族の生活を豊かにする視点」、「私にとってのものづくりの視点」、「衣服の再利用の工夫（どの部分をどのように活用するか）」その理由を明記すること。また、まつり縫い・スナップを取り入れた部分を明記すること。
(朱書きする)
 - ・解体前の全体像を、写真またはイラストで表す。

※プレゼンテーションについて

県予選では、プレゼンテーションの審査は行いません。代表に選出され上位大会に進出した場合はプレゼンテーション審査が行われます。

評価項目	評価の内容	
レポート	テーマアイデア	・「自分や家族における課題」、「解決方法（衣服等の再利用を含む）」、「期待される効果」を具体的に記述しているか。
	作業手順	・「製作工程」、「型紙の配置」、「まつり縫い・スナップを取り入れた部分」を具体的に記述しているか。
	まとめ方	・作業工程全体からアイデアまで分かりやすく記入しているか。
	布の種類	・作品に適した布地を使用しているか。
縫製	仕上がりの美しさ	・作品の出来栄はどうか。
	縫い代の幅と始末の仕方	・布やバッグの部位に応じて、適切な幅であるか、縫い代を適切に始末しているか。
	持ち手の丈夫さ	・持ち手にふさわしい強度があるか。
	まつり縫い	・まつり縫いが適切にできているか。
	スナップ付け	・スナップを適切に付けているか。
	ミシン縫い	・バッグの部位に応じて、縫い目の大きさや強度が保たれる工夫をしているか。
衣服の再利用	デザイン	・衣服の一部の利用は、テーマに応じたデザインになっているか。
	機能性	・衣服の一部の利用は、テーマに応じた機能を満たしているか。
	使用者への配慮	・使う人の立場に立った工夫がされているか。

<予選会に必要な書類等について> 9月9日(金) 必着とします。

○参加応募書・製作レポート

製作レポートは規定の用紙を用いることとし、必ず手書きをして、A3カラー印刷で提出する。

(<http://www.ajgika.ne.jp>よりダウンロード)

○各自の作品 (バッグ)

○作品返却用の宅配便着払い伝票

※県フェアにおいては、実際の競技は行いません。

★担当者(問い合わせ先)

〒252-0229 相模原市中央区弥栄3-1-7

相模原市立弥栄中学校 教諭 中瀬 有喜(会計)

(4) 「あなたのためのおべんとう」コンクール

1 目的

- ・中学校技術・家庭科での学習した内容を生かし、おべんとうづくりを行う。
- ・その成果の発表を通して、知識や技能の向上を図りよりよい食生活をめざそうとする意欲を育てる。
- ・食べてもらう相手のことを考えたおべんとうづくりを通して、身近な人とのかかわりの大切さや「食」の重要性を知る。
- ・コンクールを通して、参加者が互いの工夫点や技能を学び合い、神奈川県内の中学生の交流の場とする。

2 参加人数 1人（参加校からは5人までとする）

3 参加費 なし

4 競技について

(1) 作品の条件

対象者「あなた」を設定し、食べる季節(旬)や対象者に応じた食事摂取基準、対応する食品群等を意識して分量を決めて調理する。

(2) 競技時間

- ①調理開始から片付けを含めて50分以内とする。
(おべんとうのふたを閉めて完成、終了までの時間とする)
- ②事前準備は30分以内とし、ご飯を炊く、乾物をもどす、漬け込んでおくなどの下準備を事前に行うことは可とする。
***ご飯は、白米、雑穀米、もち麦は事前に炊飯可とする。**

(3) 食材

- ①規定課題「魚を使った調理」を主菜とする。
※魚は切り身、すり身、干物、缶詰、冷凍でも可
※甲殻類は(エビ、イカ、カニ)は規定課題とみなさい。
- ②材料費の目安は1人分850円とする。

(4) 用具

- ①お弁当箱と小物は各自で用意する。
※色、形、大きさは食べてもらう相手にあったものを使用する。
※お弁当として持ち運べる容器を使用する。皿等への盛りつけは認めない。
- ②調理器具・調理用具および調理場所は各自で用意する。

(5) 調理動画

- ①実際に調理をしている様子をビデオ撮影し、DVDかSDカードに記録する。
- ②映像は調理開始から完成まで動画を途中で停止させない。また、手元が映るように撮影し、調理している調理台が映っていること。(調味料や道具で隠れないようにする)
- ③録画の始めに材料を映し、その後50分の調理動画を撮影する。
- ④動画の録画後に完成したお弁当のカットを録画する。(バッグは白とする)
- ⑤調理時は、エプロン、三角巾、マスクをしていること。

(6) 申し込み

所定の用紙に、必要事項を記入し、学校長の承認を得て申し込む。

* 第一次審査に必要な書類

- 参加応募書
- レポート (<http://ajgika.ne.jp/>よりダウンロード)
- 審査結果・作品返送用封筒(A4サイズに宛名を記入し、切手を貼って下さい。)
※レポートと参加応募書は9月9日(金)締め切り厳守でお願いします。
動画は10月14日(金)までに送っていただければ結構です。

(7) その他

- ①参加生徒の学校名、氏名、作品はWebページなどに掲載する予定。
- ②実施要項に変更があった場合、随時内容を更新する。
- ③神奈川県大会を1位通過すると、そのまま全国審査へ進む。
全国審査を通過すると全国大会への参加資格を得る。

(8) 審査

- 〈第1次審査〉 書類審査（選考結果は大会事務局より連絡をする。）
- 〈第2次審査〉 実際に調理競技している動画とプレゼンテーションをもとに審査。

5 審査項目

レポート

①食材・献立	食材・献立が対象者にふさわしいか。
②栄養バランス	対象者の食事摂取基準や食品群別摂取量のめやすに準じ、栄養バランスがとれているか。
③規定課題	魚を主菜として効果的に調理しているか。 また、おべんとうに適した献立になっているか。
④調理方法	おべんとうに適した調理方法が工夫され、示されているか。
⑤盛りつけ	彩りや配置を工夫して盛りつけているか。
⑥味	個々の食材を生かし、おべんとうに適した味付けが工夫され記載されているか。
⑦環境への配慮	環境に配慮して調理を行っているか。（食材、熱源、器など）
⑧調理手順	時間内に完成することができたか。（後片付けも含めて90分間）

プレゼンテーション発表

⑨課題設定	テーマに沿った適切な発表であり、課題設定は適切であるか。
⑩組み立て	食べてもらう人の事を考えたおべんとうであることや食の重要性が理解されていることがわかる内容であるか。

6 参加にむけての注意事項

- * 2群については各食品の重量で表記してください。（牛乳換算しない）
- * 主食がご飯の場合、米の重量なのかご飯の重量なのかを明記してください。
- * できあがったお弁当は真上から映し、背景は白にしてください。
- * 録画は途中で停止せず、手元と調理台が映るように撮影してください。
- * 検温・体温を確認し、体調が悪い場合には競技参加を控えていただきます。
- * DVD 録画を郵送される際、開始何分くらいに魚を使った調理が映っているか、片付けが何分くらいに始まるかなどを大まかで構いませんので明記していただきますようお願いいたします。

担当者（問い合わせ・書類提出先）

〒211-0041 川崎市中原区下小田中2-17-1

川崎市立西中原中学校 荒木 聡子

TEL : 044-766-2231

(5) 創造アイデアロボットコンテスト

1、目的

- (1) 中学校技術・家庭科で学習した知識や技能を生かし、ロボットの設計・製作を行い、その成果の発表の場とするとともに、知識や技能の向上を図る。
- (2) コンテストは一つの授業の場として、参加者が互いに工夫点や機能性、構造などを学びあえるようにする。また、ものづくりに取り組んできた全国の中学生の交流の場とし、得点至上主義に走らず、発想や製作技能・努力を評価し合う。

2、方式

全国大会に準じ、ZOOMを使用したオンライン方式で行う。各会場および参加会場の学校とZOOMで接続し、本部中継による同時配信を行い競技を行う。(今年度はGoogle Meetになる可能性もあります。これから出される要項を確認してください。) 競技は各部門とも対戦形式で勝者を決定し、グループ決勝のスコアで順位付けをする。また、PR動画やPRタイムなど総合的に判断をして賞を決定する。

3、各部門について

- (1) 基礎部門 基礎部門「Ace in the hole 2」 中学校技術・家庭科の授業の基礎的・基本的な知識や技能で製作できるロボットの部門。 中学3年間で1度のみ参加が可能。→ **今年度は複数回参加に変更**
- (2) 計測・制御部門「ドキドキ!ロボット収穫祭 ～「スマート農業」に挑戦!～ 中学校技術・家庭科の授業の基礎的・基本的な知識や技能で参加できるロボットとプログラミングの部門。 中学3年間で複数回参加が可能。
- (3) 応用・発展部門「支援物資を運搬せよ!」 中学校技術・家庭科で学んだ知識や技能を最大限に発揮して製作されたロボットの部門。 中学3年間で複数回参加が可能。
- (4) パフォーマンス部門 技術・家庭科の全内容を対象にした動画作品部門。例えば栽培育成の記録や地域の料理を紹介するなど授業の取組を動画として発表する。

4、参加費

無料 (ただし、コート等は各校で準備をしてください。コートについては、ルールブックをしっかりと確認してください。)

5、申し込みについて

- ・ 2022年は基礎部門1校につき3チームまで、それ以外は2チームまでとなります。
- ・ 参加一覧表と応諾書 (県技・家研HP <http://www.gikaken.com/> より) に必要事項を記入の上郵送でお申し込みください。 **9月9日(金) 必着**

6、その他

- * 当日の運営・審判などについては、申し込みいただいた学校に連絡いたします。(各校顧問の先生方に審判をお願いします)

担当者 (問い合わせ・申し込み書類提出先)

〒252-0804 藤沢市湘南台7-18-1

藤沢市立湘南台中学校 教諭 市丸 祐介

TEL : 0466-45-4811

メール : ichimaru-y@fujisawa-kng.ed.jp